

## 看護学生が臨地実習において教員および看護師に求める資質と能力

藤本 裕二<sup>1</sup>・山川 裕子<sup>1</sup>・中島富宥子<sup>2</sup>・高田 清佳<sup>3</sup>・藤崎 郁<sup>4</sup>・楠葉 洋子<sup>5</sup>

**要旨** 本研究の目的は、看護学生が臨地実習において教員および看護師に求める資質と能力に関する指導者像について明らかにすることである。臨地実習を終えた看護学生63名を対象に、教員、看護師それぞれに求める実習指導者としての資質と能力について調査し探索的因子分析を行った。その結果、教員に求める資質と能力の因子は【学生を理解した上で成長を促す】【看護過程に関する教育能力】【豊かな人間性と教育能力】【実習の環境調整】であった。看護師に求める資質と能力の因子は【高い看護実践能力】【看護実践に関する教育能力】【意欲向上への支援】【看護実践への方向付け】であった。臨地実習を効果的に運営するためには、学習者である学生のニーズを考慮し、教員と看護師の役割分担を協議しておく必要がある。

保健学研究 23(1): 9-16, 2011

**Key Words** : 看護学生, 教員, 看護師, 資質, 能力(2010年10月15日受付)  
(2010年11月25日受理)

## I. 緒言

看護学教育における臨地実習（以下実習）の目的は、講義や学内演習で学んだ知識・技術・態度を応用して、看護実践に必要な基礎的能力を習得することである。看護師としての基本的な姿勢を学ぶ手段としても重要な役割を担っており、教員や看護師は看護学生（以下学生）の学習成果が高まるよう、効果的な支援を行う必要がある。実習において学生は不安やストレス等を抱えており、それらは教員や看護師等との対人関係の影響が指摘されている<sup>1,3)</sup>。学生は無関心な態度や否定されたと感じる体験をすることで、実習に取り組む意欲が低下したり、態度が委縮することも報告されている<sup>4)</sup>。これらは、実習における人的環境が学生の学習成果に与える影響が大きいことを意味しており、学生に対する指導者の関わりは非常に重要である。

実習に関する先行研究では、実習が学生に及ぼす影響、学生の学習活動展開状況、実習目標達成度とそれに関わる要因が大半を占めている<sup>5)</sup>。実習の指導内容に対する学生評価<sup>6)</sup>、学生が日頃感じている指導者像<sup>7)</sup>や、理想とする看護師の人間像<sup>8)</sup>等、学生評価や指導者に対する認識についても報告されている。しかし、学生の多くは大人への準備段階にあり、意識は自分に傾き、自己中心的になりやすい<sup>9)</sup>ことから、実習の関わり方について指導者と学生の認識には差異が見られる<sup>10)</sup>。学生が学習過程において指導者に求めていることを捉え、学生と指導

者双方の考えや認識の相違を減少させることが、学生のニーズを満たす要因の1つと考えられる。これまでの学生の認識に関する研究では、教員と看護師が包含された指導者像であり、詳細については明らかにされていない。指導者としての重要な要素である資質や能力に着目した研究は見当たらない。

そこで本研究は、3年次の実習を終了した学生を対象に、教員と看護師それぞれに求めている指導者としての資質と能力を明らかにすることを目的とする。教員と看護師に求める資質や能力の共通点や相違点を明らかにすることで、実習の役割分担を考慮した効果的な実習指導の在り方についての示唆を得ることができる。

## II. 用語の定義

本研究では、人格的要因を含む側面を「資質」、専門的・技術的要因を含む側面を「能力」と定義する<sup>11)</sup>。

## III. 研究方法

### 1. 対象および調査方法

本研究の対象者は、3年次に成人・老年・小児・母性・精神・地域看護学実習を終了したA大学看護学科4年生64名である。調査は、200X年5月に行った。研究の趣旨および方法等、倫理的配慮に関する説明を行った後、調査票を配布した。調査票の回答および回収箱への提出をもって研究参加の同意とみなした。63名（回収率98.4%）

1 佐賀大学医学部看護学科地域・国際保健看護学講座

2 福岡女学院看護大学

3 久留米大学病院

4 新潟県立看護大学

5 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻看護学講座

より回答があり、全員を分析対象とした。

## 2. 調査項目

先行研究<sup>6-8,12,13)</sup>を参考に、学生が求める指導者としての資質と能力に関する質問紙を作成した。

まず、先行研究をもとに＜実践的な能力＞＜理論的な教育力＞＜実習の運営＞＜学習意欲への刺激＞＜学生理解＞の構成要素からなる50項目の質問内容を抽出した。次に、類似した質問内容や不足している質問項目がないか研究者間で慎重に吟味した。学生が指導者に対して成熟したパーソナリティーの持ち主であることを求めている<sup>8)</sup>ことから、新たに＜人間性＞の構成要素を追加し、35項目の調査票を作成した(表1)。なお、質問項目の

作成にあたり、①簡潔な文章であること②教員と看護師に共通する質問内容であること③先行研究の構成要素や質問項目を中心に検討することに配慮した。評価方法は「1：全くそう思わない 2：あまり思わない 3：やや思う 4：非常にそう思う」の4段階評価とした。全項目とも得点が高い程、指導者に求める度合いが高いとした。

## 3. 分析方法

学生が求める指導者の資質と能力の構成要素を抽出するために、35項目の質問内容から、教員と看護師のそれぞれに探索的因子分析(主因子法)を行った。因子間の相関を仮定してプロマックス回転を採用した。因子数は

表1. 学生が指導者に求める資質と能力に関する質問項目(35項目)

|                               |
|-------------------------------|
| ＜実践的な能力＞16項目                  |
| 患者の情報を提供する。                   |
| ケアの実施に対して、具体的にアドバイスする。        |
| 看護の理論的な内容や既習の知識を活用するよう働きかける。  |
| 視野が広い。                        |
| 患者の状況を正しく判断できる。               |
| 冷静な判断ができる。                    |
| 他者の話に耳を傾ける。                   |
| 看護に関する専門知識を豊富に備えている。          |
| 患者に応じた個別的な看護ができる。             |
| 患者の個別情報を把握している。               |
| 看護観を持っており常により良い看護を目指している。     |
| 患者とコミュニケーションがとれている。           |
| 常識的である。                       |
| 公平に接する。                       |
| 協調性がある。                       |
| 約束は必ず守る。                      |
| ＜理論的な教育力＞5項目                  |
| わかりやすく説明する。                   |
| 学習の必要性や学習目標を明確に示す。            |
| 文献を示し活用するように教える。              |
| 記録物の書き方について、適切なアドバイスをする。      |
| 学生が実施して良い範囲や事柄等の学習内容を明確に示す。   |
| ＜実習運営＞3項目                     |
| 病棟の指導者(または教員)との連絡・調整を行っている。   |
| グループカンファレンスや計画の発表等うまく実習を運営する。 |
| 病棟の指導者(または教員)と良い人間関係をとっている。   |
| ＜学習意欲への刺激＞4項目                 |
| 励ます。                          |
| 学生が聞いたことは何でも教える。              |
| グループがまとまるように支援する。             |
| 学生がしたいことをさせる。                 |
| ＜学生理解＞6項目                     |
| 理解度を確認する。                     |
| 学生個々人の能力に応じた指導ができる。           |
| 学生の自発性を高めることができる。             |
| 良い所を認める。                      |
| 忍耐強い態度で接する。                   |
| 学生の気持ちを察している。                 |
| ＜人間性＞1項目                      |
| 寛大な心があり優しい。                   |

固有値1以上の4因子とし、因子負荷量が0.45に達しなかった教員12項目、看護師15項目を削除した。その結果をもとに、学生が教員および看護師に求める資質と能力の因子構造について明らかにした。統計解析にはSPSS ver.17.0を用いた。

#### 4. 倫理的配慮

本研究の対象学生に研究への参加を募り、研究の趣旨および方法、研究参加の任意性や拒否・中断は学業成績と一切関係なく、不利益を被らないことを説明した。調査票は無記名とし、結果は数値化して処理を行うため個人の特定ができないこと、研究成果について公表すること、研究以外の目的では使用しないことを文書および口頭で説明した。本研究にあたり佐賀大学医学部倫理委員会の承認を得て行った。

### IV. 結果

分析対象者は全員女性であった。抽出した因子構造は、質問紙の構成要素と概ね一致しており、因子構造として構成要素をさらに詳細に分類することができた。

学生が、教員と看護師それぞれに求める資質と能力の因子構造について以下に述べる。

#### 1. 学生が教員に求める資質と能力の因子構造

プロマックス回転により得られた因子パターンを表2に示す。第1因子は、「学生の気持ちを察している」「良い所を認める」「忍耐強い態度で接する」といった学生理解を含む内容と、「学生の自発性を高めることができる」「学生個々人の能力に応じた指導ができる」「看護の理論的な内容や既習の知識を活用するよう働きかける」という学生の成長に関する内容から構成されていた。また、「グループがまとまるよう支援する」ことで、グループ間の相互作用を通じて成長することにもつながると考え【学生を理解した上で成長を促す】と命名した。第2因子は、「冷静な判断ができる」「患者の状況を正しく判断できる」「看護に関する専門的知識を豊富に備えている」等看護能力に加え、「視野が広い」という情報収集やアセスメントに必要な能力といった看護過程全般を反映する内容から構成されていた。また、「わかりやすく説明する」「公平に接する」といった教育能力から構成されており【看護過程に関する教育能力】と命名した。第3因子は、「学習の必要性や学習目標を明確に示す」「文献を示し活用するように教える」「記録物の書き方について、適切なアドバイスをする」という教育力に関する内容に加え、「寛大な心があり優しい」という人間性を含む内容から構成されていた。また、「学生が聞いたことは何でも教える」は、考えを育てることと相反する内容と思われるが、本研究は学生が「求めている」ことに焦点を絞っており、聞いたことは何でも教えられだけの教育力のある指導者求めていると解釈すること

ができるため【豊かな人間性と教育力】と命名した。第4因子は、「学生が実施して良い範囲や事柄等の学習内容を明確に示す」「病棟の指導者との連絡・調整を行っている」「病棟の指導者と良い人間関係をとっている」という実習の調整に関する内容から構成されており、【実習の環境調整】と命名した。Kaiser-Meyer-Olkinの標本妥当性は0.75、Bartlettの球面性検定は0.1%水準で有意であり、このデータが因子分析に適合することが確認された。内的整合性を確認するために、全体のCronbach's  $\alpha$ 係数を算出し0.91であった。因子毎のCronbach's  $\alpha$ 係数は、【学生を理解した上で成長を促す】0.86、【知識と判断に基づく看護能力】0.86、【豊かな人間性と教育力】0.69、【実習の環境調整】0.73であり、十分な内的整合性が確認された(表2)。

累積寄与率(%)は51.81で、4因子で約5割強を説明できるが、第2、第3、第4因子の寄与率は4.63～8.18と低かった。

#### 2. 学生が看護師に求める資質と能力の因子構造

プロマックス回転により得られた因子パターンを表3に示す。第1因子は、「看護に関する専門的知識を豊富に備えている」「患者に応じた個別的な看護ができる」「患者の状況を正しく判断できる」という教員の第2因子同様に高い看護能力の内容から構成されていた。看護師には、「看護観を持っており常により良い看護を目指している」「患者の個別情報を把握している」という看護実践に関する内容から構成されていた。また、「常識的である」という項目も含まれた。常識的に物事を考えることは多様な患者の看護実践を行う上で必要な要素と考えられることから第1因子を【高い看護実践能力】と命名した。第2因子は、「理解度を確認する」「看護の理論的な内容や既習の知識を活用するよう働きかける」「病棟の指導者との連絡・調整を行っている」「公平に接する」といった教育的行動を含む内容から構成されていた。また、「冷静な判断ができる」「他者の話に耳を傾ける」「協調性がある」「約束は必ず守る」は、他職種と連携を図りながら行われる看護実践に必要な能力と考えられるため【看護実践に関する教育能力】と命名した。第3因子は、「励ます」「学生がしたいことをさせる」「学生が聞いたことは何でも教える」という学生の意欲に関する内容から構成されており、【意欲向上への支援】と命名した。第4因子は、「患者の情報を提供する」「ケアの実施に対して具体的にアドバイスする」「患者とコミュニケーションがとれている」という看護実践へ適応できる支援に関する内容から構成されており、【看護実践への方向付け】と命名した。Kaiser-Meyer-Olkinの標本妥当性は0.63、Bartlettの球面性検定は0.1%水準で有意であり、このデータが因子分析に適合することが確認された。内的整合性を確認するために、全体のCronbach's  $\alpha$ 係数を算出し0.84であった。因子毎のCronbach's  $\alpha$ 係

表2. 学生が教員に求める資質と能力の因子構造

| 因子名                    | 質問項目                             | 因子負荷量  |        |        |        |
|------------------------|----------------------------------|--------|--------|--------|--------|
|                        |                                  | 1      | 2      | 3      | 4      |
| 学生を理解した上で成長を促す         | 20. 学生の自発性を高めることができる             | 0.854  | 0.018  | -0.057 | -0.114 |
|                        | 25. 忍耐強い態度で接する                   | 0.788  | 0.041  | 0.097  | -0.131 |
|                        | 19. 学生個々人の能力に応じた指導ができる           | 0.655  | -0.011 | -0.177 | 0.218  |
|                        | 24. 良い所を認める                      | 0.644  | 0.046  | 0.001  | 0.203  |
|                        | 31. 学生の気持ちを察している                 | 0.556  | -0.041 | 0.098  | 0.242  |
|                        | 21. 看護の理論的な内容や既習の知識を活用するよう働きかける  | 0.513  | 0.025  | -0.089 | 0.068  |
|                        | 26. グループがまとまるように支援する             | 0.464  | 0.070  | 0.464  | -0.129 |
| 看護過程に関する教育能力           | 6. 冷静な判断ができる                     | 0.131  | 0.864  | -0.309 | -0.132 |
|                        | 2. 患者の状況を正しく判断できる                | -0.137 | 0.816  | -0.123 | 0.130  |
|                        | 28. 看護に関する専門知識を豊富に備えている          | -0.159 | 0.722  | 0.110  | 0.209  |
|                        | 1. 視野が広い                         | 0.289  | 0.560  | -0.067 | -0.082 |
|                        | 5. わかりやすく説明する                    | 0.026  | 0.559  | 0.218  | -0.015 |
|                        | 29. 患者に応じた個別的な看護ができる             | 0.136  | 0.538  | 0.219  | 0.031  |
|                        | 9. 公平に接する                        | 0.152  | 0.490  | 0.088  | 0.195  |
| 豊かな人間性と教育力             | 11. 学習の必要性や学習目標を明確に示す            | 0.094  | -0.183 | 0.705  | -0.086 |
|                        | 12. 文献を示し活用するように教える              | -0.173 | -0.021 | 0.635  | 0.254  |
|                        | 4. 寛大な心があり優しい                    | -0.124 | 0.328  | 0.562  | -0.241 |
|                        | 15. 記録物の書き方について、適切なアドバイスをする      | -0.194 | -0.061 | 0.544  | 0.235  |
|                        | 23. 学生が聞いたことは何でも教える              | 0.328  | -0.162 | 0.496  | 0.023  |
| 実習の環境調整                | 16. 学生が実施して良い範囲や事柄等の学習内容を明確に示す   | 0.008  | 0.047  | 0.037  | 0.707  |
|                        | 17. 病棟の指導者との連絡・調整を行っている          | 0.331  | -0.09  | -0.045 | 0.606  |
|                        | 18. グループカンファレンスや計画の発表等うまく実習を運営する | -0.092 | 0.100  | 0.130  | 0.592  |
|                        | 27. 病棟の指導者と良い人間関係をとっている          | 0.310  | 0.106  | -0.039 | 0.514  |
| 累積寄与率 (%)              |                                  | 32.94  | 41.13  | 47.18  | 51.81  |
| Cronbach's $\alpha$ 係数 |                                  | 0.864  | 0.867  | 0.698  | 0.773  |

数は、【高い看護実践能力】0.87, 【看護実践の教育力】0.81, 【意欲向上への支援】0.65, 【看護実践への方向付け】0.63であり、十分な内的整合性が確認された(表3)。

累積寄与率 (%) は53.12で、4因子で約5割強を説明できるが、第3、第4因子の寄与率は5.02～7.97と低かった。

## V. 考察

### 1. 学生支援の方法について

学生は臨地実習において、教員に【学生を理解した上で成長を促す】といった個性を踏まえた指導や情緒的な支援を求めている。つまり、学生は実習のみの関わりである看護師に理解を求めても限界があることを認識し、教員に対し良き理解者であることを求めていると思

われる。

学生にとって実習環境はストレスが多く、カンファレンスや実習記録や看護実践に対して、実習開始前から不安を感じていることが指摘されている<sup>2,14)</sup>。教員や医療従事者、患者、家族との関わりも、実習で感じるストレスの原因と言われている<sup>1)</sup>。このような状況下において、実習前より関わりがある教員は、学生にとって自分をよく知ってくれる存在として重要となる。教員は、学生が何をどのように感じているのかを理解する必要がある。学生を観察し、個々に応じた適切な関わりを行うこと<sup>10)</sup>で、学生の学習意欲や満足感を高められると考えられる。

一方、看護師には【意欲向上への支援】を求めている。学生は実習に対する意欲はあるが、看護師に失敗や

表3. 学生が看護師に求める資質と能力の因子構造

| 因子名                    | 質問項目                            | 因子負荷量  |        |        |        |
|------------------------|---------------------------------|--------|--------|--------|--------|
|                        |                                 | 1      | 2      | 3      | 4      |
| 高い看護実践能力               | 32. 看護観を持っており常により良い看護を目指している    | 0.946  | -0.153 | 0.153  | -0.034 |
|                        | 29. 患者に応じた個別的な看護ができる            | 0.867  | 0.075  | -0.089 | -0.092 |
|                        | 28. 看護に関する専門知識を豊富に備えている         | 0.805  | 0.150  | -0.055 | -0.088 |
|                        | 30. 患者の個別情報を把握している              | 0.730  | -0.217 | 0.055  | 0.261  |
|                        | 2. 患者の状況を正しく判断できる               | 0.672  | -0.119 | 0.428  | 0.055  |
|                        | 35. 常識的である                      | 0.505  | 0.364  | -0.081 | 0.062  |
| 看護実践に関する教育能力           | 22. 約束は必ず守る                     | 0.145  | 0.663  | 0.038  | 0.350  |
|                        | 21. 看護の理論的な内容や既習の知識を活用するよう働きかける | 0.013  | 0.646  | 0.013  | 0.035  |
|                        | 9. 公平に接する                       | 0.131  | 0.641  | -0.090 | 0.063  |
|                        | 6. 冷静な判断ができる                    | 0.269  | 0.635  | -0.346 | 0.039  |
|                        | 17. 大学の教員との連絡・調整を行っている          | -0.408 | 0.617  | 0.067  | 0.079  |
|                        | 7. 協調性がある                       | -0.037 | 0.546  | 0.176  | -0.224 |
|                        | 10. 他者の話に耳を傾ける                  | -0.062 | 0.538  | 0.106  | 0.188  |
| 14. 理解度を確認する           | -0.064                          | 0.509  | 0.434  | -0.001 |        |
| 意欲向上への支援               | 13. 励ます                         | 0.146  | 0.290  | 0.777  | -0.156 |
|                        | 34. 学生がしたいことをさせる                | 0.121  | -0.118 | 0.529  | 0.092  |
|                        | 23. 学生が聞いたことは何でも教える             | -0.091 | 0.034  | 0.494  | 0.258  |
| 看護実践への方向付け             | 33. 患者とコミュニケーションがとれている          | 0.120  | 0.034  | -0.013 | 0.731  |
|                        | 3. 患者の情報を提供する                   | -0.187 | 0.096  | 0.265  | 0.559  |
|                        | 8. ケアの実施に対して具体的にアドバイスする         | 0.219  | 0.078  | 0.021  | 0.516  |
| 累積寄与率 (%)              |                                 | 27.98  | 40.12  | 48.09  | 53.12  |
| Cronbach's $\alpha$ 係数 |                                 | 0.879  | 0.817  | 0.65   | 0.636  |

間違いを叱責されるのではないかと不安があり<sup>15)</sup>、実習において能動性が低下することがある。看護実践体験が学習成果に与える影響は大きく、教員よりも実践の場面で関わる機会が多い看護師の指導は、実践意欲の向上に繋がると思われた。看護師は、失敗だけを指摘するのではなく、「励まししながら指導して欲しい」といった学生の思いを実習指導に組み込む必要がある。以上のことから、看護師には、学生の学習意欲を引き出し、背押しし、実践に繋げていくよう関わることが求められている。その結果、自ら行動し達成できた経験は、最も強く安定した自己効力感となる<sup>10)</sup>と思われる。

## 2. 看護過程展開能力について

学生が、教員と看護師の両者に共通して求めているのは、「看護に関する専門知識を豊富に備えている」「患者の状況を正しく判断できる」「対象に応じた個別的な看護ができる」という高い看護過程の展開能力と、「冷静な判断ができる」「公平に接する」といった専門職業人

としての基本的姿勢であった。

教員に特徴的であったのは、看護過程において必要な情報をまとめる点に特化した知識や判断力であった。学生は、既習の知識と目前で起こっている事象を統合し、実践していくことは容易ではない。日々、実習記録を指導をする教員に対して、看護過程に関する情報整理について、「わかりやすく説明する」等の具体的な指導を求めていると考えられる。教員は、自己の指導能力の向上を図り、学生個々の学習状況を把握しながら、論理的思考に基づいた患者の特徴や観察ポイント等の指導を行う必要がある。

看護師の場合、4因子中3因子（【高い看護実践能力】【看護実践に関する教育能力】【看護実践への方向付け】）が看護実践に関する能力であったことが特徴的である。「看護実践に関しては看護師から学びたい」という学生の意識の表れだと考える。bed sideでの患者への直接的な援助については、患者をより理解している看護師から指導を受けることが効果的な実習指導に繋がる<sup>16)</sup>と考え

られる。

因子の下位項目に着目してみると、看護師に対しては「患者とコミュニケーションがとれている」「他者の話に耳を傾ける」という患者への姿勢だけでなく、「常識的である」「協調性がある」「約束は必ず守る」「看護観を持っており常により良い看護を目指している」といった仕事への姿勢も含まれていた。多くの学生は実習で看護のモデルと出会い、その殆どが教員ではなく看護師であった<sup>17)</sup>ことから、看護師は専門職業人としての基本的な姿勢についてロールモデルとなることが重要である。

### 3. 教員に求める人間性と教育力および実習の環境調整について

第3因子【豊かな人間性と教育力】、第4因子【実習の環境調整】は、教員にのみ抽出された。特に、教員に対して豊かな人間性を求めていることは興味深い結果である。教育効果に影響を及ぼすものの1つに教員の個性があり<sup>1)</sup>、教員は教育者としての人間性を振り返ることも重要であろう。学生は教員に対して、教育者としてのレベルに達している人を求めている<sup>7)</sup>ことから、教員が一方的に専門的な知識を与えるだけでは学生の実習に対する満足感や充実感が高まらないと思われる。

教員に求める教育力については、患者の経過と共に学習が進行する実習の特性を反映した結果と言える。学生は刻々と変化する患者の状況や様々な情報にうまく対応ができずに戸惑うことも多く、「学習の必要性や学習目標を明確に示す」「記録物の書き方について、適切なアドバイスをする」等といった、その時の学生の状況に適した助言や指導内容を教員に求めていると思われる。教員は、タイミングよく学生が理解できる伝え方を工夫し、学生が実習で学べたと感じることができると支援が必要である<sup>18)</sup>。

【実習の環境調整】に関しては、ハード面ではなく、課題の明確化や学習支援、人的・連絡調整といったソフト面が中心であった。学生にとって実習は未知の状況が多く、これまで学んできた机上での学習環境とは異なることから、学生は緊張した状態で実習に取り組んでいる。教員が、学生の緊張や不安となる要因をできるだけ取り除き、実習の目的・内容を明確に示しながら、実習を円滑に運営することで、学生は自己の目標を見失わずに行動ができると思われる。

学習に悪影響を与える要素の多くは、教員が学生の認知的ニーズを考慮していない点に起因する<sup>19)</sup>とされている。多様化する学生のニーズや価値観の変化に伴い、教育者が学習者に知識を伝達するといった従来の教育的関係<sup>20)</sup>では学習効果は高まらないと考えられる。本研究では、学習者の視点から実習において教員および看護師に求める資質と能力を明らかにした。これは学生の満足感や効果的な実習指導への示唆を得るだけでなく、指導者が学生の現状を認識することで指導者としての資質

や能力の向上にも繋がり意義深いものと考えられる。

### 4. 研究の限界と課題

- 1) 本研究は、1大学の1学年だけを対象とした調査によるものであるため、一般化するには限界がある。今後、研究データの妥当性を高めるために、学校施設数および学生数を増やして検討する必要がある。
- 2) 看護学実習では、領域によって看護の役割や特徴が異なることが推測される。本研究は看護学実習全てを総括した分析結果であり、領域別による検討も必要である。
- 3) 因子分析の結果、寄与率が低い因子もあった。質問内容を検討する必要がある。

## VI. まとめ

看護学生が、臨地実習において教員および看護師に求める資質と能力を明らかにすることを目的に、実習が終了した63名の学生を対象に調査を行い、因子分析の結果以下の4因子とその特徴が明らかになった。

1. 教員に求める資質と能力の因子は【学生を理解した上で成長を促す】【看護過程に関する教育能力】【豊かな人間性と教育力】【実習の環境調整】であった。
2. 看護師に求める資質と能力の因子は【高い看護実践能力】【看護実践に関する教育能力】【意欲向上への支援】【看護実践への方向付け】であった。
3. 学生は、実習における学生支援の方法について、教員には『情緒的な支援』、看護師に対しては『意欲向上への支援』を求めている。
4. 学生は、看護過程展開能力について、教員には『看護過程における情報整理やアセスメントに関する指導能力』、看護師に対しては『看護実践に関する能力』を求めている。
5. 学生は、教員に対してのみ【豊かな人間性と教育力】【実習の環境調整】を求めている。

以上のことから、臨地実習を効果的に運営するためには、学習者のニーズを考慮し、教員と看護師の役割分担を協議しておく必要がある。

## 謝辞

本研究を進めるにあたり、質問紙調査に協力していただいた学生の皆様に感謝致します。

## 引用文献

- 1) キャスリーンB. ゲイバーソン, マリリンH. オールマン: Clinical Teaching Strategies in Nursing, ニューヨーク, 1999. 勝原裕美子(監訳): 臨地実習のストラテジー, 医学書院, 東京, 2002: 57-58.
- 2) 佐藤公子: 実習前の不安が学生のストレス・コーピ

- ングと心理状態に与える影響について基礎実習Ⅱの開始前・後のアンケート調査からの考察. 臨床看護, 33 (10) : 1512-1515, 2007.
- 3) 伊藤暁子, 和賀徳子, 中井英子, 名原壽子, 吉田喜久代, 田島桂子: 臨床(地)実習指導者に求められる能力と教育内容. 看護展望, 18 (5) : 63-70, 1993.
  - 4) 田村美子, 白木智子, 進藤美樹, 田村紀子, 中柳美恵子: 看護学生が臨床指導者から受ける否定的ケアリング体験. 看護教育, 45 (9) : 748-752, 2004.
  - 5) 山下暢子, 定廣和香子, 舟島なをみ: 1994年から1998年における看護学実習に関する研究内容の分析について-学生を対象とした研究に焦点をあてて-. 看護教育学研究, 12 (1) : 29-36, 2003.
  - 6) 石川ふみよ, 市瀬陽子, 森千鶴, 奥宮暁子, 大西和子: 学生の教員評価による臨床実習指導体制の検討. 臨床実習指導, 4 (4) : 78 - 84, 1992.
  - 7) 大下静香: 看護学生からみた期待される指導者像. 日本看護学会論文集 看護教育, 15 : 138-140, 1984.
  - 8) 堀尾美津代, 見上富久子, 石上丹美子, 大幡鏡子, 小島奈保子, 矢島タキ, 柳本節美, 安藤宣代: 理想とする臨床医指導者の人間像とは(第2報)-学生からみた指導者の姿-. 日本看護学会論文集 看護教育, 15 : 153-156, 1984.
  - 9) 戸田肇: 現代の若者気質と看護教育. 看護, 61 (4) : 74-76, 2009.
  - 10) 高山清美: 看護学生の主体性を育む教育方法とは-指導者側と学生側の認識の差異をめぐって-. 看護展望, 33 (11) : 88-94, 2008.
  - 11) 大平泰子, 大石昂, 水上義行: 教員に求められる資質能力とは-小学校教員における資質能力の構成要因に関する文献レビュー-. 富山国際大学子ども育成学部紀要, 1 : 31-41, 2010.
  - 12) Zimmerman L, Westfall J: The development and validation of a scale measuring effective clinical teaching behaviors. *Journal of Nursing Education*, 27 (6) : 274-277, 1988.
  - 13) 影本妙子, 合田友美, 大島亜由美, 中西啓子: 成人看護学慢性期・終末期の実習指導の分析-ECTB評価スケールを用いて-. 川崎医療短期大学紀要, 28 : 27-31, 2008.
  - 14) 山川裕子, 安田加代子, 福澤雪子, 三嶋敬子, 寺山志穂, 徳永美香: 看護学生の実習不安と懇話会の意義. 日本看護学会論文集 看護教育, 35 : 205-207, 2004.
  - 15) 前川利枝, 大石ふみ子, 櫻井しのぶ: 看護学生のはじめての臨地実習に対する思い-フォーカスグループインタビューによる分析-. 三重看護学誌, 8 : 131-136, 2006.
  - 16) 石川ふみよ, 森千鶴, 千葉恭子, 奥宮暁子, 岡部聡子, 大西和子, 大淵律子, 小林伸子: 臨床看護実習における教員評価の妥当性と指導体制の一考察-学生の教員および看護婦に対する評価-. 東京都立医療技術短期大学紀要, 4 : 77-90, 1991.
  - 17) 紙屋克子, マイマイティ・パリダ, 落合幸子: モデルとの出会いが看護学実習での学びの内容に及ぼす影響. 日本脳神経看護研究学会会誌, 30 (2) : 165-173, 2008.
  - 18) 影本妙子, 合田友美, 大島亜由美, 中西啓子: 成人看護学慢性期・終末期の実習指導の分析-ECTB評価スケールを用いて-. 川崎医療短期大学紀要, 28 : 27-31, 2008.
  - 19) Adachi Takanori: Teaching from the Learners' Perspectives. 人文・社会科学論集, 26 : 75-86, 2009.
  - 20) 生田久美子: 「教える」と「学ぶ」の新たな教育的関係-「わざ」の伝承事例を通して-. 日本看護研究学会雑誌, 30 (2) : 141-143, 2007.

# A study of quality and ability about what nursing students are expecting from their teachers and nurses in clinical practice

Yuji FUJIMOTO<sup>1</sup>, Yuko YAMAKAWA<sup>1</sup>, Fuyuko NAKASHIMA<sup>2</sup>

Sayaka TAKADA<sup>3</sup>, Kaoru FUJISAKI<sup>4</sup>, Yoko KUSUBA<sup>5</sup>

1 Community & International Health Nursing, Institute of Nursing, Faculty of medicine, Saga University

2 Fukuoka Jogakuin Nursing College

3 Kurume University Hospital

4 Niigata College of Nursing

5 Department of Nursing, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

Received 15 October 2010

Accepted 25 November 2010

**Abstract** The purpose of this study is to identify the characteristics of the quality and ability about that nursing students expect from their teachers and nurses in clinical practice. The subjects were 63 nursing students. After clinical practice, we, the authors, distributed a questionnaire regarding the quality and ability of the students' teachers and nurses. We developed an exploratory factor analysis to extract the components of the teachers and nurses' quality and ability. As a result, we extracted 4 factors expected from the teachers. The 4 factors were, "To understand and encourage the students", "Teaching ability in nursing process", "Well-rounded character and educational ability" and "Environmental coordination in clinical practice". We also extracted 4 factors expected from nurses. The 4 factors were, "Highly-skilled nursing ability", "Teaching ability in clinical nursing practice", "Motivation Support", and "Direction for nursing practice". It is essential for teachers and nurses to consider the needs of students, and to have a clear understanding of division of roles between teachers and nurses.

Health Science Research 23(1): 9-16, 2011

**Key Words** : student nurse, teacher, nurse, quality, ability